

熊本城修復史

熊本城調査研究センター 木下 泰葉

はじめに

城の修復＝城の維持＝御奉公¹ 「普請」（土木工事）と「作事」（建築工事）

修復史料が残る理由…江戸幕府の城郭政策との関わり 「武家諸法度」の規定²

1. 初期の修復事例―災害と修理―

地震が頻発する 17 世紀初頭 慶長大地震（1596・1615）

熊本では寛永期にも地震が続く

●加藤家による修復…寛永 2 年（1625）の地震

「肥後二先月十七日ノ夜大なへゆり、殿主其外城中ノ家から木立計残り、かわら・ひき物も皆々おちくづれ、城中二人五十人ほど死申候、煙硝倉ともずりニ火出候間、跡もなくふきちらし、あたり五町・八町之間ノ家無残ふきちらし、ゑんせう八万斤ノ上有之つる故ニ、倉ノ下ノ石かさ何も屋ねかわら六り・五りほどふきちらし申候、斉藤伊豆殿・防庵ノ家も損、少つ・作事被仕候、城之儀者江戸へ被仰伺のよし申候、」（永青文庫所蔵「万覚書」）

●細川家による修復

・寛永 10 年の地震 「あふなく候て庭のなき本丸ニハ被居不申候」

→「地震屋」・花畑屋敷³

→寛永 11 年 3 月「肥後国熊本城廻普請仕度所絵図」（熊本県立図書館所蔵）

破損箇所修復も含めた普請・作事

・大雨・洪水頻発→常に修理に追われる 17 世紀前半

・「しまり」のない熊本城

寛永 21 年普請進捗の確認→正保城絵図の作成 維持・管理の時代へ

・城普請はとにかく注意！ 関係各所との綿密なやりとり

2. 城の修復許可申請のしくみ

・修理願絵図とは？ 江戸幕府に居城の修理を願う時に作成・提出する絵図

・修復許可の流れ

事前協議（江戸幕府表右筆組頭）→申請（月番老中）→老中奉書による許可

・絵図の描き方…細川家の場合、画期は天明 2 年（1782）？

【特徴】惣構を描く、「本丸」のみ文字を入れる、建物は描かない（白抜き）、修理箇所は朱線で、図外に破損状況を記入

・修理された石垣

①石門 元禄 15 年（1702）8 月申請→元禄 16 年 8 月櫓解体→元禄 17 年 3 月竣工

②櫓方三階櫓台 文政 3 年（1820）12 月申請→櫓解体→文政 5 年 6 月竣工

3. 修復の担い手―大工・穴生・瓦師―

・熊本藩の普請作事担当部署…御普請御作事方（作事所）江戸中期以降は竹之丸に

・19 世紀後半の櫓修復ラッシュ 町大工の活躍

十四間櫓、七間櫓、源之進櫓、監物櫓、東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓、田子櫓、四間櫓、不開門

→国指定重要文化財として今に残る

・熊本藩の穴生…戸波・北川・野口・中西など

・熊本藩の瓦師…二大製作地の小山・土山、瓦師棟梁

おわりに

¹ 白峰旬『幕府権力と城郭統制―修築・監察の実態』（岩田書院、2006 年）

² 藤田譲治「大名城郭普請許可制について」（『人文學報』、1990 年）

³ 後藤典子『熊本城の被災修復と細川忠利』（熊日新書、2017 年）

熊本城の災害による破損と修理履歴(江戸初期～明治期)

熊本城調査研究センター

年	西暦	災害			修理	
		種類	被害	出典	内容	出典
寛永2年	1625	地震	6月 熊本地方大地震。城内被害甚だしく煙硝蔵爆発。天守、石垣に被害。(M5～6)	万覚書		
寛永10年	1633	地震/大雨	石垣に被害あり。本丸東石垣約20間破損。	部分御旧記城郭部		
寛永11年	1634				破損した石垣・櫓の修理、新規の石垣・櫓の構築を申請。	肥後国熊本城廻普請仕度所絵図
寛永17年	1640	大雨	8/13～16 大雨のため、八代城・熊本城の石垣破損。	部分御旧記城郭部	8/18大雨による熊本城本丸東方石垣孕みのため修理願ひ。(9/3 幕府より許可)	部分御旧記城郭部
寛永21年	1644	大雨洪水	6/25 大雨洪水。石垣5ヶ所、土手8ヶ所、塀・櫓1ヶ所、土居16ヶ所、川岸1ヶ所、水路2ヶ所破損。	部分御旧記城郭部	7/10 熊本洪水のため、破損箇所をの修理を幕府に申請。(8/23 幕府より許可)	御自分御普請
慶安2年	1649	大雨	6月 大雨で本丸内朝山斎助屋敷前へ出る門脇の石垣10間、高さ3間崩れ。	細川光尚達書	8/14 本丸北東の石垣崩れについて修理を幕府が許可。	綿考輯録卷六十四
延宝4年	1676	大雨洪水	4/18～5/24まで大雨・洪水数回。被害甚大。	渡辺玄察日記 四月廿二日と五月廿四日迄大雨洪水破損之覚	大雨洪水により城内石垣、塀、土居、水抜等破損のため修理願ひ。(12/11 幕府より許可)	部分御旧記城郭部
元禄3年	1690				新一丁目御門付近の堀の浚渫願ひ。	肥後国熊本城絵図
元禄4年	1691	大雨	大雨のため本丸北(現家庭裁判所付近)の川岸崩れ。		崩れた岸の修理願ひを幕府に提出。	肥後国熊本城下川岸崩候所之絵図
元禄15年	1702	洪水	肥後国中、水損・洪水あり。	肥後近世史年表ほか	8/9幕府に小天守北側石門付近、奉行丸西空堀土手、棒庵坂南空堀岸、古京町別館付近石垣・岸、坪井土手の修理申請。石門は元禄17年3月完了。	〔熊本城修補願絵図〕
宝永4年	1707	地震	10/4 東海道大地震(宝永地震、M8.6)。肥後も大地震。人吉の被害大。豊後岡城も櫓倒壊、石垣崩落。	肥後近世史年表ほか		
宝永6年	1709				10/7 熊本城6ヶ所(西竹之丸五階櫓北階段東側石垣ほか)修理願ひ。	肥後国熊本城絵図
正徳5年	1715				4/2 熊本城石垣孕みのため、5ヶ所の修理を願ひ、許可あり。	続跡覧
享保4年	1719	大雨洪水	5/22 肥後洪水。田畑13万石損耗。		8/27 熊本城本丸北石垣1ヶ所、北東石垣1ヶ所孕み、外曲輪南西川岸土留の石垣1ヶ所崩壊の修理願ひ。(9/29 幕府より許可)	続跡覧
享保7年	1722				5/27 新一丁目御門周辺の堀2ヶ所、坪井方面の堀3ヶ所の浚渫願ひ。(5/28付で幕府より許可)	続跡覧
元文5年	1740				7/1 高麗門脇の堀ほか2ヶ所の浚渫願ひ。(閏7/9 幕府より許可)	続跡覧
寛保3年	1743				5/16 熊本城石垣4ヶ所孕みのため積み直し、うち2ヶ所で添石垣構築願ひ。(5/21 幕府より許可)	続跡覧
延享元年	1744	地震	8/5 地震あり。		9/28 熊本城石垣修理・堀浚渫願ひ。(11/9 幕府より許可)	続跡覧
延享4年	1747				2/29 熊本城石垣崩れ、孕みのため3ヶ所の修理、堀1ヶ所浚渫願ひ。(4/12 幕府より許可)	続跡覧
寛延2年	1479				7/25 熊本城石垣孕みのため1ヶ所修理願ひ。(8/11 幕府より許可)	続跡覧
安永6年	1777	強風	7/25 肥後大風で南御門(南大手門ヵ)を櫓中程より吹き破られる。			
安永8年	1779				5月 高麗門周辺の堀3ヶ所の浚渫願ひ。(6/1 幕府より許可)	続跡覧
天明2年	1782	強風	8/20 熊本大風のため倒家669軒。	本藩年表	5/28 石垣破損のため、3ヶ所(不開門・六間櫓下石垣、山崎口入口石垣、古城石垣)修理願ひ。(6/11 幕府より許可)	肥後国熊本城絵図、 続跡覧
天明4年	1784				10/26 新一丁目御門周辺の堀の浚渫願ひ。(11/13 幕府より許可)	肥後国熊本城絵図、 新続跡覧
寛政2年	1790				1/25 熊本城東十八間櫓南石垣、備前堀東石垣の修理願ひ。(2/1 幕府より許可)	肥後国熊本城絵図、 新続跡覧
寛政4年	1792	地震	3/1熊本地震60余程。4/1島原の眉山崩れ、大津波発生。2000軒以上流失、死者5000人以上。	肥後近世史年表ほか	源之進櫓修理。	壁書扣
寛政5年	1793				2月 熊本城修理許可。	本藩年表
寛政8年	1796	大雨洪水	6/11 熊本大洪水、古今未曾有の洪水、熊本府内京町山崎の外全域浸水、潰家2,927軒等。城内数ヶ所破損。	郷党歴代拾穂記、跡覧目録	11/18 数寄屋丸石垣・長櫓、西出丸北空堀石垣・土手、棒庵坂南空堀石垣・土手、松井山城西空堀岸修理願ひ。(12/28 幕府より許可)	〔肥後国熊本城絵図〕、 新続跡覧
寛政9年	1797				戊亥櫓続きの石垣、孕みのため修理。	壁書扣
寛政10年	1798				12/18 櫓方隅御櫓下の石垣、百間堀下石垣孕みのため修理。(翌2/9 幕府より許可)	壁書扣、新続跡覧
文政3年	1820				12/7 櫓方櫓下石垣修理願を提出(翌1/22 幕府より許可、文政5年6月竣工)	肥後国熊本城絵図、 新続跡覧
弘化元年	1844	地震	6/25～28 地震あり。(久住・北里の被害大)	肥後近世史年表	十四間櫓修理	棟札、壁書扣
弘化2年	1845				要人櫓修理	壁書扣
弘化4年	1847	地震	12/20 数十年来稀な強震。熊本城の諸所の石垣も崩れや孕み。会所の囲い靱蔵なども破損。	肥後近世史年表		
嘉永元年	1848				地震で崩れた櫓方内の石垣の修理。	壁書扣
安政元年	1854	地震	11/5・7 安政南海地震(M8.4)町在で家の倒壊等の被害。熊本城内に格別の被害なく、少々損所あり。	本藩年表、刑部家日記		
安政4年	1857				七間櫓修理	柱墨書
安政6年	1859				源之進櫓修理	棟札
万延元年	1860	大雨洪水	4/7～9 強雨により家屋・田畑浸水。		監物櫓修理	棟札
文久元年	1861				東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓修理	棟札ほか
慶応元年	1865				田子櫓修理	懸魚
慶応2年	1866				四間櫓、不開門修理	棟札
明治17年	1884				宇土櫓修理	
明治22年	1889	地震	7/28 頼当門正面の石垣、間口通路の石垣、飯田丸五階櫓台、下馬橋の石垣、百間石垣の上部が崩壊(金峰山地震、M6.3)石垣崩壊42ヶ所1261坪、石垣孕み20ヶ所1418坪、崖崩壊7ヶ所383坪。	熊本震災日記、陸軍省大日記、震災ニ関スル諸報告ほか	石垣・建築物の修繕費は当時の金額で10万円以上。陸軍によって修理が実施される。	九州日日新聞(8/9)、 陸軍省大日記

【参考】『熊本藩年表稿』(細川藩政史研究会、1974)、『岡城跡石垣等文献調査報告書』(竹田市教育委員会、2011)『熊本県防災計画』(熊本県防災会議、2015)、地震調査研究推進本部HP <http://www.jishin.go.jp/>、熊本県防災情報HP <http://cyber.pref.kumamoto.jp/bousai/default.asp>
* (マグニチュードは「地震調査研究推進本部」HPおよび『熊本県防災計画』による。)